

マネジメントサイクルを活用した小学校保健室経営の改善

Improvement of the health room management using the management cycle in elementary school

久米 真里, 池田 誠喜

KUME Mari and IKEDA Seiki

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第 31 号

Bulletin of Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.31, Feb., 2017

マネジメントサイクルを活用した小学校保健室経営の改善

Improvement of the health room management using the management cycle in elementary school

久米 真里, 池田 誠喜

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748 鳴門教育大学大学院
KUME Mari and IKEDA Seiki
Naruto University of Education, Graduate School
748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

抄録：本研究は、養護教諭が課題解決型の保健室経営計画を、R（調査）・P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルA（改善）に基づいて実践し、学校保健活動の充実、児童の健康の保持増進に寄与するための保健室経営計画の効果と課題を検討することを旨とした教育活動の実践報告である。

児童数全128名 教職員数14名の公立の小規模小学校において、調査期としてアセスメントの実施、計画期として課題解決型保健室経営計画の作成と周知、実施期として課題解決型計画を基にした保健活動の実施、評価期としてステイクホルダーによる活動の評価を、改善期として評価に基づく改善を一連のマネジメントサイクルとして実施した。結果、保健室経営計画を用いた保健室経営の成果が示された。

キーワード：課題解決型保健室経営計画 マネジメントサイクル 学校保健活動

Abstract : The present study was a practice report that was carried out in the management cycle using a problem-solving type management plan of the school health room for children's health. To enrich the school health activities, a practice report of educational activities aimed at contributing to the maintenance and promotion of children's health. In the public of small elementary school, all 128 people the number of children, in the faculty and staff number 14 people, school health activities have been carried out in the management cycle. (1) "Research" stage, implementation of the assessment, (2) "Planning" stage, problem-solving creation of the health room management plan, (3) "Do" stage, the implementation of health activities that was based on a problem-solving plan, (4) "Check" stage, evaluation of activities, (5) "Action" stage, was carried out a program evaluation by stakeholders as a series of management cycle. As a result, health room management using the infirmary management plan is largely the effect was seen.

Keywords : problem-solving type management plan, management cycle, school health activities

I. はじめに

平成20年の中央教育審議会答申『子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について』（文部科学省、2008）によると、子供の健康を取り巻く状況について、「近年の社会環境や生活様式の急激な変化は、児童生徒の心身の健康に大きな影響を与えており、ストレスによる心身の不調などのメンタルヘルスに関する問題、新型インフルエンザや麻疹、風しんなどの感染症など、新たな課題が顕在化している。」と述べられ、子どもの心身の健康に関わる新たな課題への対応が必要とされている現状が示されている。

子どもの健康問題について、学校教育においては、これまで養護教諭が児童生徒の身体の健康の保持増進を推

進する中心的な役割を担ってきたが、このような新たな健康課題に対処するために、養護教諭はさらなる新しい役割を担い対応する力が求められてきている。

近年の学校保健に関する法の改定により養護教諭の職務が広がり、これまで以上に養護教諭への期待が高まっている。法改定後の現在の養護教諭の具体的な職務としては、①保健管理、保健教育、健康相談活動、保健室経営、保健組織活動、②担任、保護者、学校医、学校歯科医、学校薬剤師、スクールカウンセラーとの学校内連携、③医療関係者や福祉関係者など地域の関係機関との連携に関わるコーディネータの役割、④ティーム・ティーチングや兼職発令を受け保健の領域にかかわる授業など保健教育を担う役割、⑤いじめや児童虐待などの早期発見・早期対応、などがあげられる（文部科学省 中央教育審議会答申による、2008）。また、これらの養護教諭の活

動は保健室経営として整理統合され、充実を図ることが求められている。そのため、養護教諭は保健室経営計画を立て、教職員に周知を図り、その計画に基づいて学校教職員全体で保健活動に取り組むよう中央教育審議会の答申において示されている。

1. 保健室経営計画

平成20年1月の中央教育審議会答申において、学校保健関係者の役割の明確化、学校内外の組織体制づくりの二点に焦点を当てた具体的な提言がなされ、保健室経営計画を立て、保健室経営の充実を図ることが養護教諭に求められた。保健室経営計画は、『当該学校の教育目標などを受け、具現化を図るために、保健室の経営において達成されるべき目標を立て、計画的・組織的に運営されるための計画書』と定義された。

学校保健安全法の施行により、養護教諭には、保健室の機能を生かして学校内外の関係する教職員との連携を図り、児童生徒の健康の保持増進に計画的、継続的に取り組むことが一層期待されている。

2. 課題解決型の保健室経営計画

近年、経営的な視点を踏まえた保健室の運営が求められているのは、児童生徒の健康課題が従来以上に深刻化していること、さらに、その背景要因が複雑化していることが理由としてあげられている（文部科学省、2008）。中教審答申（文部科学省、2008）は、この状況を解決するために、単に保健室の中の施設や備品の管理またはそれらの配置の工夫または保健室で行う管理や指導のみならず、教育の場において、教育的、人的、組織的、物的環境等の条件の中で保健活動を展開する必要があることを示した。

これを受け日本学校保健会（2014）は保健室経営計画作成の手引において、学校評価に準拠した課題解決型保健室経営計画の指針を示した。養護教諭が児童生徒の健全育成のための活動を学校全体で組織的に展開するために、課題解決型の保健室経営計画を立て、児童生徒の心身の健康づくりを効果的に進めていくことが養護教諭に求められている。

課題解決型の保健室経営計画を作成するに当たり、宮田（2009）は、保健室経営計画の作成が、児童生徒の課題や日々の活動を見直す視点を明確にし、より確かな役割意識を養護教諭が持つことの重要性を述べている。また、新開ら（2015）は、課題解決型の保健室経営計画を用いた実践から、保健室経営計画と学校保健活動や学校評価が連動する関係であることを示し、保健室経営計画が児童生徒の健康の保持増進を図ることを目的として学校経営の一翼を担うものであることを示した。さらに、新開ら（2015）は、保健室経営計画を作成することで、

養護教諭の役割について教職員の理解が深まるなど、様々な学校保健活動が効果的に行われることを明らかにした。

このように、課題解決型の保健室経営計画を作成し実践することで、これまで以上に学校内で効果的な学校保健活動を生み出すことが期待できる。しかしながら、日本学校保健会（2012）の「学校保健の課題とその対応－養護教諭の職務等に関する調査－」によると、①全体で27%の養護教諭が、保健室経営計画を作成していない。②全体で33%の養護教諭が、保健室経営計画を作成していても評価計画を作成していない。③全体で56%の養護教諭が、保健室経営計画の他者評価に取り組んでいなかった。④全体で24%の養護教諭が、保健室経営計画を作成していても、全職員へ周知していない。など、活用できていない状況が報告されている。また、大野（2010）は、「保健室経営は学校教育目標を受け、養護教諭の専門性と保健室ならではの特質を生かした教育活動を展開し、学校・学級経営の一翼を担い、またその考え方が反映されるものでなければならない。そして前年度の評価・反省を踏まえ計画的・継続的に実施されるもので、学校教職員等と連携協力体制をとって運営することが求められる。」と述べ、保健室経営という養護教諭の職務実践をRPDCAサイクルによるマネジメントとしてとらえる視点が必要であることを指摘している。

これまで述べてきたように、保健室経営計画は、課題解決型によるマネジメント機能を活用した実施が求められている。しかし、活用の実態には幾つかの課題が見られているのが実情である。

II. 研究の目的

本実践研究は、課題解決型の保健室経営計画をR（調査）・P（計画）・D（実施）・C（評価）・A（改善）サイクルに基づいて実践し、学校保健活動の充実、児童の健康の保持増進に寄与するための保健室経営計画の効果と課題を検討することを目的とした。

III. 研究方法・実践・結果・考察

課題解決型の保健室経営計画をRPDCAマネジメントサイクルで実践し、マネジメントサイクル（C：評価）より、本実践研究についての評価を行う。また、評価を基にマネジメントサイクル（A：改善）により、課題の分析・改善を行い研究のプロセスを検討する。本研究は、筆者である大学院で教職を研究する現職養護教諭が、研究者として対象校の養護教諭と協働で実践する形で進められた。

1. 実践計画

- 実践1 課題解決型保健室経営計画づくりのためのリサーチ (R：調査)
 実践2 保健室経営計画の作成 (P：計画)
 実践3 課題解決型保健室経営計画の実践 (D：実施)
 実践4 マネジメントサイクルにおける評価(C：評価)
 実践5 マネジメントサイクルにおける改善(A：改善)

2. 実践1 課題解決型保健室経営計画作成のためのリサーチ (R：調査)

1) 対象

D県公立小学校 平成22年度～27年度 在籍児童資料

2) 時期

平成28年1月～3月

3) 資料

- ①学校保健統計調査 (平成26年度～平成27年度)
 ②定期健康診断結果 (平成26年度)
 ③う歯の学校保健統計調査(平成22年度から5年間)
 ④保健室来室状況 (平成26年度～平成27年度)

学校保健統計調査は、統計法に基づく基幹統計(文部科学省所管)として実施されるものであり、各学校で学校保健安全法により、毎年行われている健康診断である。本実践研究では、児童、生徒及び幼児の発育並びに健康状態を明らかにし、学校保健行政上の基礎資料を得ることを目的として用いた。

4) 調査結果

①学校保健統計調査(2年間)

リサーチ(R：調査)として、平成26年度及び平成27年度の学校保健統計調査結果を比較した(表1)。「視力」(視力が1.0未満)が平成26年度より4.5%増加している。「眼科疾患」が13.4%、「齲歯」(これ以降、う歯と表記)が5.6%と、平成26年度より減少しているが、「う歯」は26年度、27年度とも罹患率が70%以上と高い数値を示している。

表1 学校保健統計調査結果

項目	項目数	26年度		27年度	
		項目数	該当者数(%)	項目数	該当者数(%)
痩身	1		2.3		2.9
肥満度	3		7.7		9.6
栄養	2		0.8		5.1
脊柱	1		0.0		0.0
視力	1		17.6		22.1
聴力	1		0.0		0.0
眼科疾患	1		20.8		7.4
耳疾患	1		4.6		6.6
鼻・副鼻腔疾患	1		6.2		3.7
口腔咽頭疾患	1		0.0		0.7
皮膚疾患	1		6.9		0.7
結核	1		0.0		0.0
心臓疾病・異常	2		0.0		0.0
尿検査異常	2		0.0		0.0
寄生虫卵保有者	1		0.0		0.0
その他の疾病	7		6.2		2.2
齲歯	2		76.2		70.6
その他の歯疾患	1		16.9		11.0

②定期健康診断結果

図1に、平成26年度の「主な疾病・異常の状況」についてD県と全国との比較を示した。「う歯」の罹患状況がD県・全国と比較して著しく高い。一方、「う歯」以外の疾病・異常の罹患状況は概ね低く、大きな差がないものと見られる。

次に、「主な疾病・異常の状況」の項目について対象校の属するD県内E地域の小学校2校(B・C校)と比較した(図2)。「う歯」については、E地域内の他の2校と比べて罹患率が高い。その他の疾病の項目については特に大きな差と高い罹患率は見られなかった。

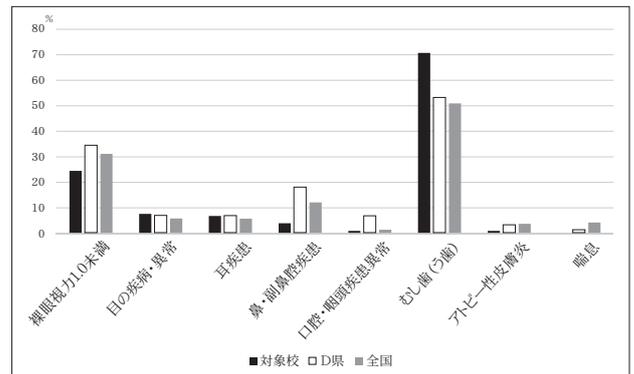


図1. 平成26年度の主な疾病・異常等の全国・県との比較

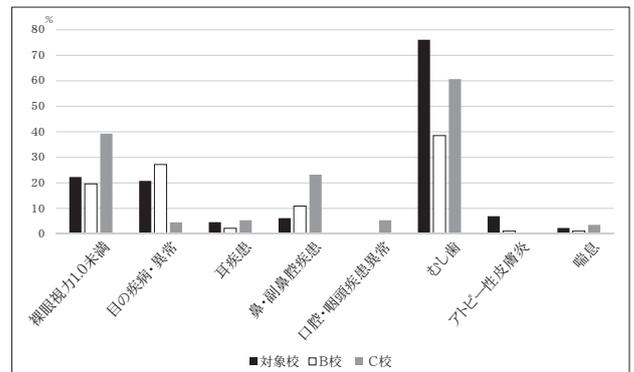


図2. 平成26年度の主な疾病・異常等のE地域内との比較

③学校保健統計調査(う歯のみ：5年間)

「う歯」については、全国やD県に比べて罹患率が高く、E地域と比べても高かった(図3)。また、平成22年度から平成27年度の実習校における「う歯」の割合の推移(図4)を見ると、平成22年度の罹患率が一番高い。しかし平成27年度までその数値は上がったたり下がったりしているが、特に変化はなく、どの年度においても70%を超えていることから罹患率が高いことが分かる。

④保健室来室状況調査結果

2年間(平成26・27年度)の保健室の月別利用者状況を図5-1、図5-2に、平成27年度の曜日ごとの保健室利用状況を図5-3に示す。

年間の保健室の利用人数の1日の平均は、平成26年度が1日平均利用者数3.1人、平成27年度は1日平均利用

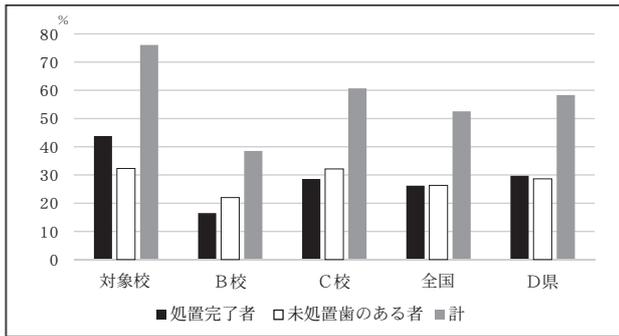


図3. う歯の処置率

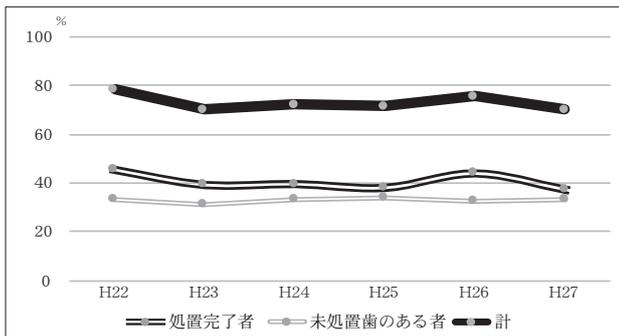


図4. う歯罹患率の推移

者数3.9人であった。

保健室利用状況に関する調査報告書(平成23年度調査結果)によると、全国1日平均利用者数9.1人(小学校小規模校149人以下)と比べて平均利用者数が少ない。他の学校と比較すると、小学校小規模校(150~299人)21.2人、小学校中規模校(300~499人)29.7人、小学校大規模校(500人以上)小学校大規模校(複数配置校500人以上)67.8人であり、規模全部を合わせた(全体)の平均は25.8人である。保健室利用の内訳として、外科的理由での来室が1年間を通して最も多く、次いで内科的理由、その他となっている。曜日別の利用状況としては、週始めの利用数が少ないが、他に特徴的なものは見られない。

6) 考察

保健室経営計画づくりに向けて、調査結果に基づいて改善目標に掲げる課題について検討した。

2年間の調査結果からは、「う歯」罹患児童が2年間とも70%を超えている。国・県・地域内他小学校との比較においても対象校の「う歯」の罹患率が高い。また、治療のコストの問題も存在する。対象校が属するE地域は、人口約5,000人規模で、地域内には歯科診療所(歯科医院)が3院ある。厚生労働省(2012)の公表による歯科診療所の人口比の全国平均は2.6で、D県の平均は2.7である。対象校地域は人口比率では歯科診療所が少ないとは言えないが、対象地域はD県内でも人口密度が低く、治療のための通院は容易ではない環境にある。交通機関や保護者の付き添いなどの治療通院にかかるコストが大

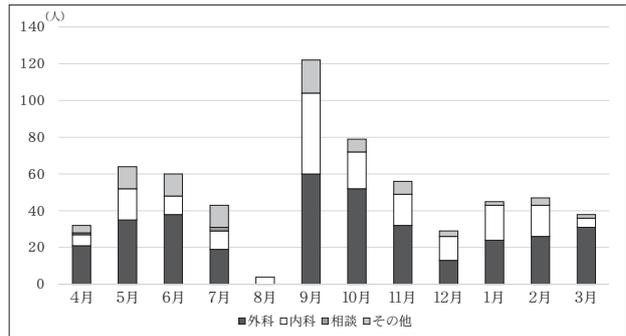


図5-1 平成26年度月別保健室の来室者数

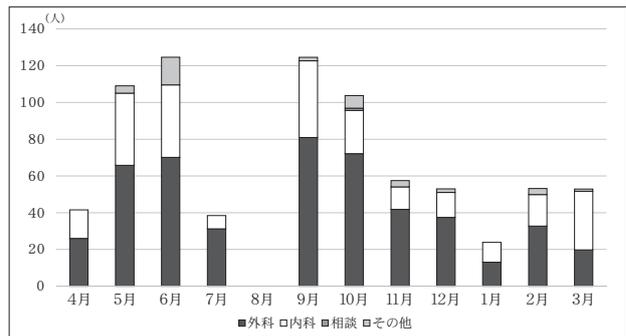


図5-2 平成27年度月別保健室の来室者数

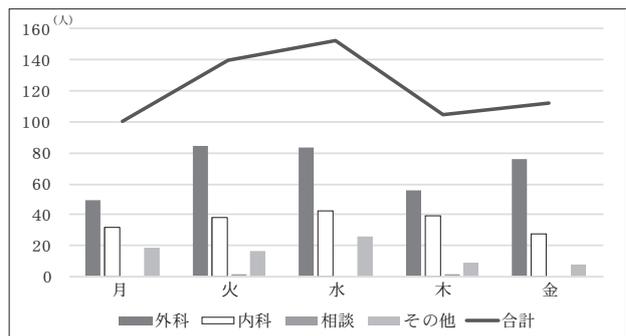


図5-3 平成27年度曜日別保健室の来室者数

きいと考えられる。これらの状況を踏まえると、特に「う歯」の予防について歯科保健指導の見直しと充実が喫緊の課題と捉えることが必要と思われる。一方で、「う歯」以外の疾患は少ないことが見て取れた。「眼科疾患」については、平成26年度の疾患率が20%を超えているものの、次年度は7.4%となり、他県との比較からも罹患率は高くなく、改善目標としての第一の課題からは外すこととした。ただ、裸眼視力1.0未満の視力については20%を超えており、重要な健康課題として捉え、今後、予防対策に取り組む必要があると考える。

保健室来室状況調査結果からは、全国値と比較しても来室人数の割合は少ない。月別来室人数(図5-1, 5-2)からは、内科よりも外科で来室することが多いことが分かる。けがでの来室が減ること、学校での生活態度に関連が考えられるため、生活態度や生活習慣を整えることが課題となると考えた。本課題は、全ての学校保健の課題の背景となっているものであり、常に取り組み

なければならぬものである。そのため、本研究においては、取り上げた課題の背景として合わせて取り組むこととした。以上のことより、2年間で70%を超えている「う歯」を保健室経営計画の改善目標課題として捉えることが妥当であると考えた。

2. 実践2 保健室経営計画（P：計画）

1) リサーチに基づく保健室経営計画の基本方針

実践1の調査結果と考察を基に課題の整理・明確化を図るため、対象校の養護教諭より保健室経営に対する基本的な考えの聞き取り、課題解決型の保健室経営計画を作成した。保健室経営計画は、学校教育目標と学校経営方針を踏まえたうえで、学校保健目標と関連づけを行った。

保健室経営計画作成の次の段階として、研究調査者である筆者が、養護教諭の立案する学校保健全体計画に参画し、協働で見直しを行った。その上で学校保健目標を「自ら学び考え、健康で心豊かにたくましく生きる子どもの育成」と設定したうえで、保健室経営計画の重点目標を「健康な口腔環境を目指す子どもの育成」と定めた。

課題解決型の保健室経営計画を進めるにあたり、実行するためのランドデザインとしての課題解決型保健室経営計画実行マネジメントサイクルを作成した（図6）。R（調査）では、定期健康診断の結果の分析や養護教諭からの聞き取りから児童の健康問題の調査を行う。次のP（計画）では、保健室経営計画を作成する。その際、児童の健康実態の把握に努め、課題を整理し明確にした。これらの手順により作成された経営計画について、学校教育目標・学校経営方針や学校保健目標との関連の確認

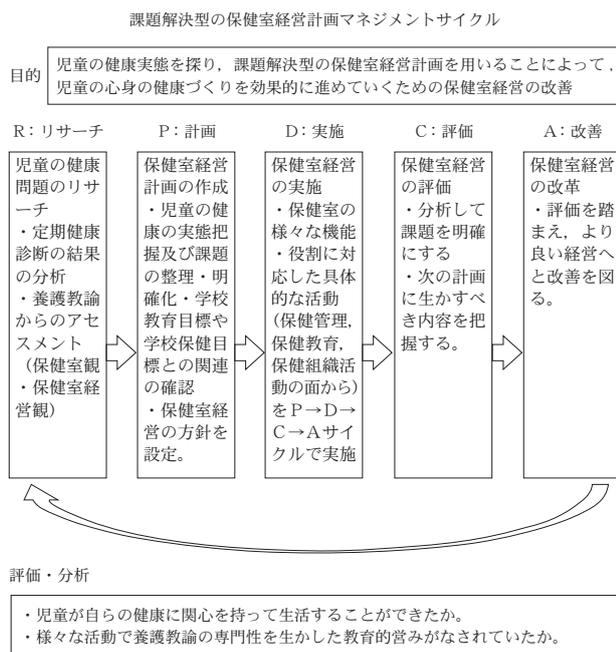


図6 課題解決型保健室経営計画実行マネジメントサイクル

を行い、保健室経営方針を設定した。D（実施）は保健室経営の実施となる。保健室の様々な機能・役割に対応した具体的な活動（保健管理、保健教育、保健組織活動）をP→D→C→Aで実施。C（評価）では、保健室経営の評価を行う。評価には自己評価と他者評価がある。他者評価は、学校の教職員をステイクホルダーとして、この評価を分析し、課題を明確にして次の計画に活かすべき内容を把握する。最後にCの評価を踏まえてより良い保健室経営へのA（改善）を行う。

3. 実践3 課題解決型保健室経営計画の実践（Do：実施）

1) 課題解決型保健室経営計画の実践

作成した課題解決型保健室経営計画を表2に示す。

2) 保健室経営計画の提案と活用

保健室経営計画を職員会で提案し、教職員への周知を図った後に、保健室経営計画に基づいて学校保健活動を展開した。

3) 実施時期

平成28年5月～7月

4) 課題の把握1. 歯科検診

歯科検診の結果を図7、図8に示す。

5) 歯科検診結果の分析

「う歯」の処置完了者が38.6%、未処置者が29.1%、

表2. 保健室経営計画

平成28年度 保健室経営計画

学校教育目標 人権尊重の精神を基盤とし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成	
学校経営方針（保健安全に関わるもののみ） ・子どもの「人間力」を育てる ・よりよく生きていこうとする姿勢を持つ子どもを育てる	
学校保健目標 自ら学び自ら考え、健康で心豊かにたくましく生きる子どもの育成	
重点目標 ○今ある歯やこれから生えてくる歯を大切に、健康な口腔環境を目指す子どもの育成。 ○基本的な生活習慣の確立を目指すとともに、心身の健康増進のための指導の充実を図る。	児童生徒の主な健康課題 ・むし歯の罹患率が70.6%で、全国や県に比べて20ポイント近く高い。 ・昨年度の1年と3年の未処置者が処置完了者を上回っている。 ・基本的な生活習慣が身につけていない児童が見られる。（朝食摂取率は90.7%であるが、栄養のバランスを考えた内容ではない児童がいる。） ・肥満度は昨年度より下がっているが、個別でみると上がっている子どももいる。

経営目標	保健室	保健室経営目標達成のための具体的な方策（※評価の観点）	自己評価		他者評価		
			到達度	理由 いつ だれから	到達度	意見・助言等	
個別口腔環境の歯検診の結果を基に、集団健康・	1	「歯垢2」の児童に対し、昼休みにはみがき指導を行う。※ポイントを抑えて分かりやすく説明できたか。	1	実施後	児童が学級担任	1	聞き取り・アンケート
			2			2	
			3			3	
			4			4	
児童委員会活動で「歯と口の衛生週間」に向けて啓発活動をする。※委員会のメンバーが主体的に活動できるような支援ができたか。	1	児童委員会活動で「歯と口の衛生週間」に向けて啓発活動をする。※委員会のメンバーが主体的に活動できるような支援ができたか。	1	実施後	児童が学級担任	1	聞き取り・アンケート
			2			2	
			3			3	
			4			4	
実態を把握し、発達段階に応じた指導を展開する。※歯科検診結果を分析し、十分な教材研究ができたか。分かりやすかったか。	1	実態を把握し、発達段階に応じた指導を展開する。※歯科検診結果を分析し、十分な教材研究ができたか。分かりやすかったか。	1	実施後	児童が学級担任	1	聞き取り・アンケート
			2			2	
			3			3	
			4			4	
保健室経営目標1に対する総合評価			1	2	3	4	

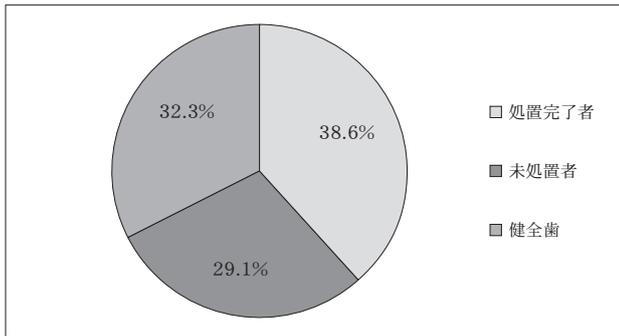


図7 歯の状況

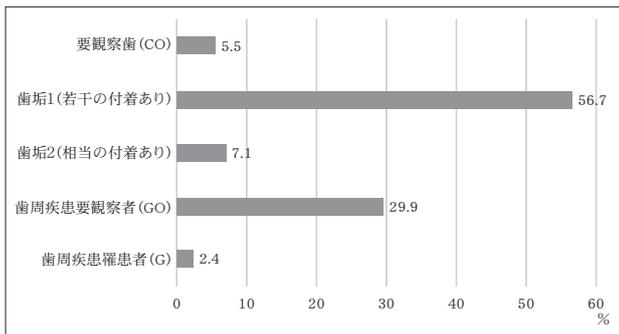


図8 むし歯以外の口腔疾患

健全歯が32.3%だった。この処置完了者と未処置者の合計がむし歯の罹患率であり、67.7%で、前年度の結果と比べると2.9ポイント低かった(図7)。

図8は、「う歯」以外の口腔疾患の結果である。対象校では、「CO」が5.5%、「歯垢1」が56.7%、「歯垢2」が7.1%で、合計すると歯垢がついている児童は全体の63.8%だった。また、「GO」が29.9%、「G」が2.4%だった。要観察歯「CO」とは、放置するとむし歯に進行すると考えられている歯である。歯垢の状態については、歯科検診では、ほとんど付着なしの「歯垢0」、若干の付着ありの「歯垢1」、相当の付着ありの「歯垢2」の3区分に診断される。「GO」と「G」は歯肉の状態を表す。歯周疾患要観察者「GO」は、歯肉に腫れや軽い出血が見られる歯肉炎だが、生活習慣の改善と注意深いブラッシング等によって炎症が改善されるような歯肉の状態を言い、歯周疾患患者「G」は、治療を必要とする歯肉の状態である。

6) 課題の把握 2. 歯に関する生活習慣実態調査

1日3回歯みがきをしている児童は、64%、磨いていない児童は35%。このことから全体の3分の1以上が毎食後に歯みがきをしていないと推察された(図9)。

児童の「う歯」に対する知識理解の状態を把握するため「むし歯になった歯はまた元通りの歯に治す事ができますか。」という問いに「はい」と「分からない」と合わせると全体の半数以上の児童が、「う歯」はまた元通りの歯に治ると思っていた結果となった(図10)。

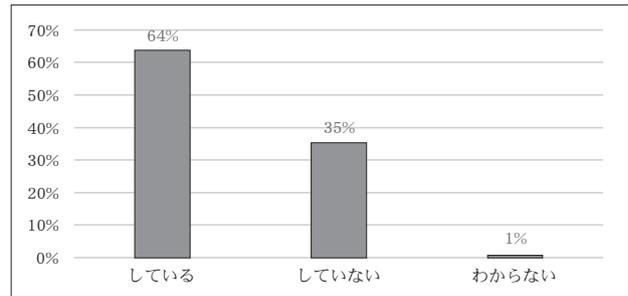


図9 1日3回の食後の歯みがき実施状況

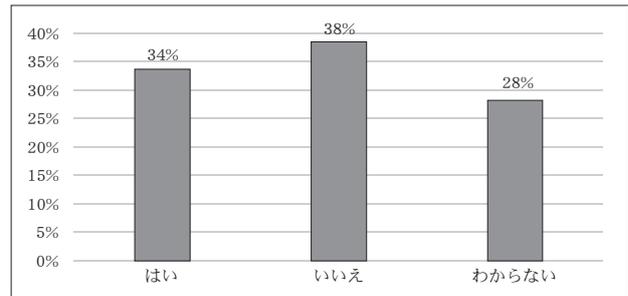


図10 「う歯」に対する理解

7) 実態把握に関する考察

課題解決型保健室経営計画の課題に設定した「う歯」に関する調査の結果から、歯みがきの仕方に課題があることが推察された。また、「う歯」になった歯がまた元通りに治ると思っていると思われる児童が相当数いることから、「う歯」に対する正しい知識を持っていない児童が多いことがあきらかになった。

8) 実践活動の実際

児童の「う歯」に関する実態把握を踏まえて実践計画に則り実践活動を行った。

①給食後の歯みがきの巡回指導

- ・時期：平成28年6月
 - ・対象 全児童児童数128名
 - ・方法：給食後、各学年の歯みがきの巡回指導
- 養護教諭による各学年の歯みがきの巡回指導を実施。歯科検診結果で気になる児童を中心に、歯ブラシの持ち方、歯ブラシを動かす力、歯ブラシの当て方を指導した。給食後の歯みがきの巡回指導では、各学年ほとんどの児童が歯みがきをする様子が見られた。

②「歯垢2」の児童に対する個別の歯みがき指導

- ・指導時間：昼休み
- ・場所：保健室
- ・対象者：「歯垢2」と診断された中・高学年の児童。
- ・方法：歯みがきをしてから保健室に来るように指示。歯垢染色液を使用し、磨き残しを鏡で確認させた。その後、鏡を見ないで行う歯磨きと鏡を見ながら行う歯磨きを実践させ、鏡を見ながら歯磨きすることが役立つことを学んだ。

③児童委員会活動

- ・う歯予防の劇

・夏休み歯みがきカレンダーの作成

保健給食委員会活動でう歯予防活動を実施した。一つは、「う歯」に関する劇である。劇は給食の後に歯みがきをする児童としない児童の口の中の違いや「う歯」のでき方について伝える内容で、高学年の保健給食委員会の児童により、各教室で低学年を対象に昼休みを利用して実施された。委員会の児童は前週から劇の練習を積み重ねて、本番はとても大きな声で発表し、ゆっくりわかりやすい速度で説明していた。低学年の児童からの反応も良く、低学年児童から「歯をみがいていてもむし歯になるのですか？」と質問があり、部長が「歯を磨いていても磨き残しがあつたらむし歯になります。」と堂々と答えていた。

委員会活動の第二として、夏休みの歯みがきカレンダー作りを実施した。劇と同様に、保健給食委員会の児童が、夏休み日数分の絵を描き、朝・昼・夜に分けておき、歯みがきをしたら塗るペーパーを作成し、全児童に配布、夏休み終了後に回収した。多くの児童が提出し、夏休みの歯みがきを、多くの児童が自主的かつしっかり取り組んでいた様子が見とれた。

4. 実践4 マネジメントサイクルによる評価(C:評価)

マネジメントサイクルの評価(C:評価)を実施。保健室経営を評価し、次に生かすべき内容の把握に努めた。調査方法としては、ステイクホルダーとして数名の学校教職員を対象に、保健室経営計画を基に展開した学校保健活動についての評価を実施した。

1) 対象

D県公立小学校 学校長、担任教諭1名、指導教諭1名、養護教諭1名

2) 時期

平成28年7月

3) 調査方法

半構造化面接によるインタビュー調査

4) 調査内容

保健室経営計画について、認知の度合い、計画内容、実践状況、効果、課題を予定質問とした。

5) 分析方法

インタビューで集取された音声データを文章化し、共通点を抽出し分類後にカテゴリとしてまとめ、それぞれのカテゴリの特徴を示す語句を用いて、本実践の成果と課題を分析した。

6) 結果

分析結果を表3に示す。

7) 考察

マネジメントサイクルの評価(C)として考察を行った。カテゴリ1として、「保健室経営計画の周知の難しさ」を生成した。「年度当初、他の校務に紛れての話だからあ

まり覚えていない。」のコメントに示されているように、保健室経営計画が出されている事実は認識されていたが、保健室経営計画の内容までは認識されていなかった状況が語られている。また、「ごめんなさいっていう感じかな。先生と一緒に養護教諭が活動していたのは知っていたが、それについての詳しいことは自分の中で分かっていた。」のコメントからは、歯科保健活動を実践していたことは認識していたが、それが保健室経営計画に基づいて展開している事は認識されていないようであった。年度当初に保健室経営計画を全体場で説明し共通理解を図る場を設けたが、それだけでは教職員全体の認識を深めるには至らなかった。学校保健活動を全ての教育活動に関連付けて実施できるようにするためにも、さらなる啓発活動を継続的に実施する必要がある。

カテゴリ2として「保健室経営計画の効果」を生成した。「どういう形で作っていくのか分からなかったの、それを勉強させていただくすごく良い機会になって良かった。」や「1年間全体のことを年間計画って立てても1年間で力を入れて取り組みましたって出来るのは一つか二つって考えたら、特に大事な課題ってああいう風に立ててどうしていくのかっていうことが必要だなとすごく感じた。」などのコメントから、保健室経営計画を作成実施することで、養護教諭がこれまでよりも効果的な保健室経営が実施できたと感じたことが示された。また、「やっぱり6月はバタバタする時期で、前の年からはきちんと計画しとかな」のコメントからは、忙しい勤務状況においても、児童の健康課題を把握し、計画的に実践するための指針として役立つものになることが示唆された。

カテゴリ3として、「保健室経営計画の課題」を生成した。保健室経営計画の提案者である養護教諭のコメントの「最初にこういうことをしますって職員会で出した後、中間報告がいったかなって思う。今こういうことをしてますので知っておいていただけたらってのを全体場で私をもっと発信していかなかったらいかんかったかなって思って」や「委員会でこういうことをしますとか今回は担任の1・2年生にしか相談しなかったの、それも放課後にちよろっと口で言っただけなので、委員会でこんな事をさせてもらいますって言った方が、今年は歯科についてやってるんだな、っていうのが先生方に伝わったり、『歯みがきしよるで?』っていうの声かけをしていただけたら、とかつながったのかなって思っ。」のコメントから、保健室経営計画の課題が、教職員に周知すること、教職員の共通理解を得ることであることが示唆された。保健室経営計画は、養護教諭が主に作成することになるが、作成に必要なリサーチ、実施する計画の実現性も教職員との協働作業が不可欠になってくる。したがって、計画の作成時から教職員全体の協力を

表3 インタビューの分析結果

マネジメントサイクルによる評価 の分類カテゴリー名とコメント例

< 1. 保健室経営計画の周知の難しさ >

- ・ごめんなさいっていう感じかな。先生と一緒に養護教諭が活動していたのは知っていたが、それについての詳しいことは自分の中で分かっていたがなかった。
- ・年度当初、他の校務に紛れての話だからあまり覚えていない。他の校務は自分の経験もあるので「それやな、それやな」って分かるんだけど、それについては紛れてしまって、でまあ、どこの学校でも言われよったようなことを言っていた気がするのですがいかがでしょうか。
- ・こうやっていってくれたら分かるけど、こちらもたばたばたしていてじっくり見てあげられてないから本当に申し訳なかったと思う。
- ・知りません。それは校長先生のところですか？

< 2. 保健室経営計画の効果 >

- ・今回全体計画も先生と一緒に細かく立てさせていただいて、保健室を年間でどうしていくか、課題を一つどーんと置いてそれにに向けてやっていくという去年自分が出来ていなかった事で、新しくやったので最初はどう、先生にほとんど作っていただいたんですけど、どういう形で作っていくのかわからなかったの、それを勉強させていただくすごく良い機会になって良かったなって思って。
- ・やっぱり、1年間全体のことを年間計画って立てても1年間で力を入れて取り組みましたって出来るのは一つか二つって考えたら、特に大事な課題ってああいう風に立ててどうしていくのかわかっていうことが必要だなとすごく感じたんですけど、もうちょっと私もそうなんですけど、私がいろいろ遅かったんですけど、せっかくだったので最後のブラッシング指導がぎりぎりのバタバタになってしまってもうちょっと6月始めぐらいから入れ込んで行けたら来年再来年、冬場の保健指導とか歯科指導とか頑張らないかなと思った。健康診断とか
- ・やっぱり6月はバタバタする時期なので、前の年からきちんと計画をしとかな、今回は先生にすごくお手伝いしていただいたので、健康診断も含めて日常の業務まで手伝っていただきながらやってきたので、じゃあ、自分一人で計画立てて歯科指導もして健康診断もしてって一学期やっていくってなったら、もっとなんか改めて計画の大切さと、前の年の春休みとか冬休みとかから徐々に計画を練ってこうしようかなっていう準備をしとかな一人でやるとなったら厳しいところがあるなって思ったので、でも出来ないかなって思うところなので頑張らないかなって思いました。

< 3. 保健室経営計画の課題 >

- ・最初にこういうことをしますって職員会で出してから、中間報告がいったかなって思う。今こういうことをしますって知っておいていただけたらっていうのを全体の場で私をもっと発信していかなかったらいいかなって思っていて、去年も作ってないのでああ、そんなのがあるんやなぐらいで4月はばーっと流れてしまったと思うので。
- ・委員会でこういうことをしますとか今回は担任の1・2年生にしか相談しなかったの、それも放課後にちょっと口で言っただけなので、委員会でこんな事をさせてもらいますって言った方が、今年は歯科についてやってるんだな、っていうのが先生方に伝わったり、「歯みがきよるで？」っていう声かけをしていただけたり、とかつながったのかなって思っている。

< 4. 歯科保健活動の効果 >

- ・やって良かったって言っていた。
- ・それを今回1、2年生や違う学年に向けて何かを発信するっていうことで、まあ子ども達には時間をとったので文句も出たんですけど、やってみたら良かったっていうアンケートの答えもあって良かったなって思って、自分自身も達成感があったし、子ども達もなんか。
- ・子ども達もめんどくさいって言いながらも結構最後の方はリハーサルとかも大きな声で言っていたし、アンケート見たら、Aさんとかは他のテーマで劇をやってみたくて書いてあったし、Bさんめいやだったって書いてあったけど、もうするのは嫌だけどちょっと面白かったって書いてあったんで、子ども達のためにもやって良かったなって思っていますね。
- ・同年代の子が作ってくれた方が、普通のプリントよりは興味が、絵が上手いとか下手とかは別として、何を描いたのかなって興味がちょっとでもあったらそれも一つ効果なのかなって思うんですけど。
- ・やっぱり授業でもないし、歯科衛生士さんが来て見られてるっていうのでも無く、普通の普通の歯みがきの状態がどんなものかというのを実感してもらおうのは良い機会かなと思って。

< 5. 歯科保健活動の課題 >

- ・それは分らん。歯みがきはしていると思う。今の6年は結構神経質。Cさんも歯みがきはしていると思う。丁寧にしているかどうかは謎だけれども。
- ・あれをやったから次の日から磨いているっていったらそうでない気もしたんですけど。
- ・でも結局ああと「歯ブラシ忘れました」って言っていたのでやっぱり1回では厳しいかなと思いつつ。
- ・ブラッシング指導の後に劇をした方が1年生にも入っていったのだと思う。せっかくしてくれたのに申し訳なかったのが、子どもがきょんとしたこと。食べたすぐだったからきょんとしていた。
- ・教師として先に見ていたら、補足とかできたかもしれん。これだけ子どもと時間をかけて作り上げていたのに本当に申し訳なかったと思う。
- ・ほなけん、劇のことも内容が分かっていた方がより良かったかもしれん。こうやって先にどんなことをするかシナリオを見せてくれていたら、一言子ども達にも指導できたと思う。やっぱりせっかくしてくれるのに価値のあるものにしていかないと。
- ・歯みがきの時間も短い。みんな遊びに行きたいし、金管等で忙しいし。
- ・毎年夏休みのは委員会の子に作ってもらっているので、今年も恒例行事みたいに作った面はあったんですけど、歯みがきカレンダーもどういう効果があって、もっと改善する点があるのかなって思ったり。
- ・もっと提示の方法を考えたら良かった。小さいから、内容を聞いていてもぼけっとしていたような気がする。提示の方法を学年に応じてした方が良い。
- ・している時に現場にいて一緒に歯みがきしたり、指導するのがいい。担任と一緒に。見守ってますよっていうのがいるかな。それを1週間ぐらいずっと続けたら子どもも習慣化につながる可能性も高いと思う。1回だけでは、やっぱり地道な指導っていうのが生活習慣においては大事だと思う。
- ・うんうん。それと時間やな。曲を決めて全部が無理だったらどこかのクラスだけしてみるとか。
- ・まず、統計とか結果集計が出来たら保護者に返さなあかんわな。分析結果も添えて。その上で家庭でのご指導をお願いしますとともに学校でも個別に指導をしていきます。というてからの個別指導になると思う。読んでる人は読んでるしね。やっぱりこうしますって知らしめてから学校での指導に移った方がいいんじゃない？そしたら学校にも協力的になると思うし。
- ・まあ、誰とでもやけど。とにかく人間関係をつくっていかんとなんでもできんってことかな。担任の理解と協力があってあと関係機関との連携っていうのも大事やね。
- ・試験的に給食を全部食べらすの置いて、1ヶ月間だけでも3分間だけ時間を決めて。
- ・なんせ時間がないのが一つの問題だと思う。しよれへんもんな。形だけで。ほんでチェックもしよれへんけん、チェックしたら忘れてきていて適当にうがいで済ませてる子とか、忘れてきていてもそのままという子もいるかもしれない。そっちよりも食べさせるって言う方に重きを置いているから。学年ごとに回って行って10日間だけでもそれをやってみるとか。全部を変えるためには全ての時間をその時間にせなあかんけん難しいかなと思います。

得ながら、理解を広げ深めることを意識していかなければならないと感じた。保健室経営計画作成後も、職員会で1度だけ提示して済ますのではなく、その都度、実践の内容や経過の報告をしていくことが保健室経営計画の課題となると思われる。

カテゴリ4として、「歯科保健活動の効果」を生成した。「やって良かったって言っていた。」「アンケート見たら、Aさんとかは他のテーマで劇をやってみたくて書いてあったし、Bさんもいやだったって書いてあったけど、もうするのは嫌だけどちょっと面白かったって書いてあった」のコメントからは、歯科保健活動の一定の効果が見てとれた。

また、個別の歯みがき指導について、養護教諭の「普段の歯みがきの状態がどんなものかを実感するのに良い機会」や「同年代の子が作ってくれた方が、普通のプリントよりは興味が、絵が上手いとか下手とかは別として、何を描いたんかなって興味がちょっとでもあったらそれも一つ効果なかなって思うんですけど。」というコメントからは、養護教諭自身も本歯科保健活動の効果を感じられ、本実践の成果の一つとしてあげられる。

最後に、カテゴリ5として、「歯科保健活動の課題」を生成した。このカテゴリに当てはまるコメントは、個別指導のあと、普段の歯みがきが「丁寧になったかどうかは分からない」「歯ブラシをわすれて来ている」などである。今回の歯科保健活動の効果が見られなかった部分が指摘された。また、委員会活動で実施した劇について「ブラッシング指導の後が良かった」や「先にシナリオを見せてくれていたら、一言子ども達にも指導ができたと思う。」という担任のコメントから、保健給食委員会が実施した劇の時期の選択やその内容を担任に知らせる事の必要性が感じられる。給食後の歯みがきについては、「歯みがきの時間も短い。みんな遊びに行きたいし、金管で忙しいし。」や「なんせ時間が無いのが一つの問題だと思う。しよれへんもん。形だけで。ほんでチェックもしよれへんけん、チェックしたら忘れてきていて適当にうがいで済ませている子とか、忘れてきていてもそのままという子もいるかもしれない。」というコメントから、歯みがき指導を実践するのにあたり、時間が確保出来ないことや、児童の歯みがきの実態を担任が把握出来ない恐れがあるという問題点が浮かび上がった。委員会活動で作成した歯みがきカレンダーについては「もっと改善する点があるのかなと思ったり」という養護教諭のコメントから実践に問題を感じていると推測される。その課題の解決策として、「現場にいて一緒に歯みがきしたり、指導するのがいい。担任と一緒に。見守ってますよっていうのがいるかな。それを1週間ぐらいずっと続けたら子どもも習慣化につながる可能性も高いと思う。1回だけでは、やっぱり地道な指導っていうのが生活習慣にお

いては大事だと思う。」や「まあ、誰とでもやけど。とにかく人間関係をつくっていかんとなんもできんってことかな。担任の理解と協力があってあと関係機関との連携っていうのも大事やね。」のコメントから、担任との共通理解の上で実践を進めていく事が養護教諭に求められていることが伺われる。また、「学年ごとに回って行って10日間だけでもやってみるとか。」「試験的1ヶ月間だけでも」のコメントから全体から実践する難しさとまず、1つの学級で試してみて効果が認められてから全体に広げるなどのアイディアが出されていた。

以上のことを整理すると、今回の歯科保健活動は、歯科活動を実施するための環境設定だけでなく、効果的な取り組みとするための教職員の理解の必要性が浮かび上がってきた。そのために、歯科保健活動の内容の検討にとどまらず、歯科保健活動について全教職員の理解を深め、積極的に関わることができるような保健室経営計画の作成が必要となってくる事が示唆されたと考える。

5. 実践5 マネジメントサイクルによる改善(A:改善)

インタビュー分析より、改善について、以下に示す。

1) 全教職員の保健室経営計画への認知度を高める

カテゴリ1「保健室経営計画の周知の難しさ」のコメントから分かるように、保健室経営計画が出されていることは教職員に認知されていたが、実際には、養護教諭が行っている実践と結びついて認識されていなかったため、活動が広がらず、他の教職員の積極的関与を促せなかった。

改善として、保健室経営計画を周知するための工夫が必要である。カテゴリ3「保健室経営計画の課題」のコメントから、計画を一度提示して終わりにするのではなく、実践についての詳しい説明や実践の経過の報告をその都度行うことにより、担任や他の教職員から関心を高め協力を得られることが考えられる。また、調査や活動内容や指導方法を検討する際にも他の教職員の意見を聞き、協力をお願いするなど、養護教諭から積極的に関わることも協働を生み出すのに有効だと考えられる。

2) 実践計画の実行に関係する教職員に積極的にコンタクトを取り、情報を知らせ、連携を図る

カテゴリ5「歯科保健活動の課題」のコメントから示されたことは、実践後の確認と実践の繰り返しの必要性である。個別の歯みがき指導に関して1度きりの実践では効果が認められないことや担任との連携が出来ていなかったために、実践後の確認が不十分であったと感じられた。また、保健給食委員会の劇の時期も担任に相談をしたり、内容を詳しく説明したりしていれば、子どもの関心や理解度も増したのではないかと推測される。

大切にしなければいけないことはカテゴリ4「歯科保健活動の効果」のコメントにある、「やって良かった。」

にもあるように、やってみようと思ったことや、少しでも効果がありそうなことはどんどん実践につなげていくことだと感じられた。実践計画を作成するにあたり、子どもの実態を踏まえたものであることや、担任に相談すること、委員活動においては子どもとつくり上げていくことが重要になってくる。

IV. 総合的考察と今後の課題

課題解決型の保健室経営計画の作成実施は、特に、主として取り組む養護教諭に対して、児童の健康課題の改善に積極的かつ計画的に取り組むこと、教職員の組織的な取り組みの必要性について認識する機会となったと考えられる。

多くの教職員が課題解決型の保健室経営計画について理解を深め、協力して取り組む風土が作り出されれば、児童の健康の保持増進に大いに寄与することが期待できる。今後、保健室経営計画が多くの学校で作成され実施され、内容が充実することが望まれる。

課題として、本実践研究は、課題解決型の保健室経営計画について、マネジメントサイクルの中で計画内容と実施効果について検討するデザインで実施したため、マネジメントサイクル自体の評価がなされていない。課題解決型の保健室経営計画はRPDCAサイクルにより作成から実施改善がなされる形で実施されることが奨励されており、マネジメントサイクルによる実施状況を同時に評価することが課題である。

また、課題解決型保健室経営計画は、一つ一つの課題解決のための取り組みを積み上げてこそ、学校が抱えている健康課題を解決することにつながるため、継続したデータの収集と分析が必要となってくると考えられる。さらに、保健室経営計画は、学校全体での保健活動として取り組むべきものなので、全教職員の負担を考慮する必要がある。近年は、多忙による教職員のストレスによる精神疾患も大きな問題となっており、教職員の負担感に配慮した取組が求められる。

引用文献

- 文部科学省 (2008) 中央教育審議会：子どもの心身の健康を守り、安全・安心を確保するために学校全体としての取組を進めるための方策について (答申)
- 宮田幸江 (2009) 保健室経営計画と養護教諭の役割意識との関連について (平成 21 年度修士論文 愛知教育大学)
- 日本学校保健会 (2004) 養護教諭の専門性と保健室の機能を活かした保健室経営の進め方
- 日本学校保健会 (2009) 保健室経営計画作成の手引

日本学校保健会 (2012) 学校保健の課題とその対応－養護教諭の職務等に関する調査結果から－

大野 泰子 (2010) 保健主事の役割にみる保健室経営の進展 鈴鹿短期大学紀要 30, pp.89－96

新開美和子 田嶋八千代 (2015) 学校保健を学校評価に位置づけるための研究－課題解決型保健室経営計画を基盤として－日本養護教諭教育学会誌 pp.3－12